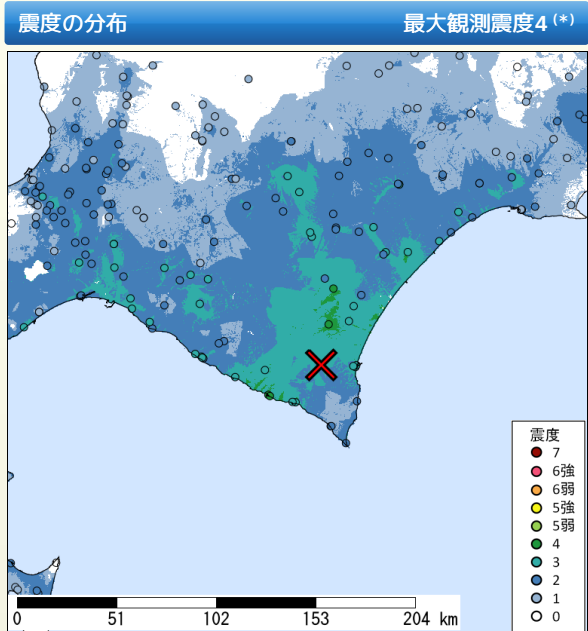


M 5.3, 震源地:十勝地方南部, 深さ約50km, 2025/07/28 12:10頃発生 (気象庁発表)



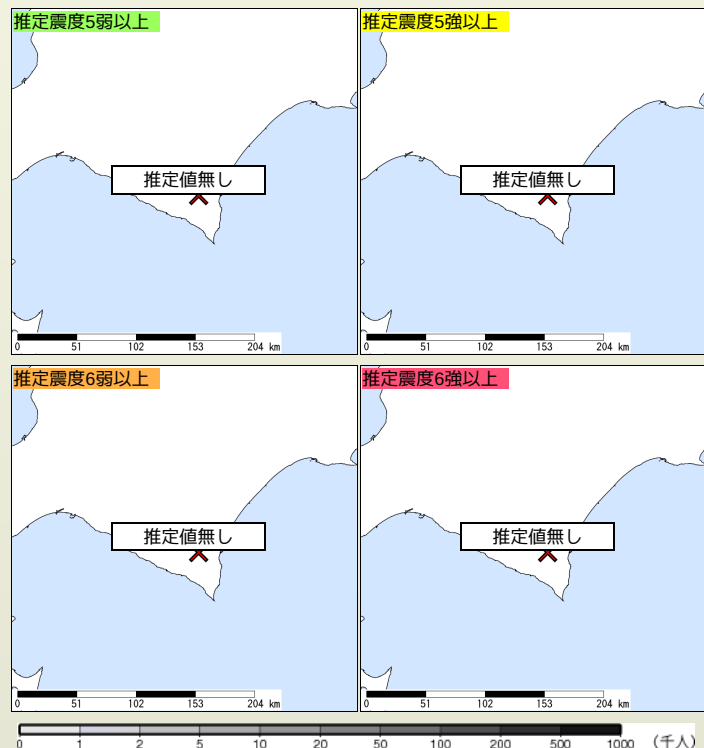
解析開始時点(2025/07/28 12:20:52)で収集されている防災科研K-NET, KIK-net, 気象庁, 地方公共団体震度計の計測震度データを利用。(*) 気象庁発表の情報と一致しない場合がある。一部正式な観測震度計ではない観測点を含む。暫定的な震度値を含む。丸印は観測、塗りつぶしは推定データ。×印は震央位置。他の図表も同様。

主要都市の推定震度 (都市の最大観測震度と人口を考慮して掲載)

最大(*) 観測震度	推定震度頻度分布 1 2 3 4 5 5+6-6+7	市区町村名	全人口: 昼間 (人)	震央距離 (km)
4		北海道広尾郡大樹町	6,100	26
3		北海道中川郡幕別町	23,000	70
3		北海道釧路市	170,000	129
3		北海道日高郡新ひだか町	24,000	60
3		北海道河西郡芽室町	20,000	68
3		北海道千歳市	93,000	132
3		北海道札幌市東区	230,000	166

最大観測震度は、各市区町村内で観測された最大震度。観測された計測震度を250mメッシュで補間し、市区町村ごとに推定震度頻度分布を作成した。報開始時刻が9:00-18:59のとき昼間人口、19:00-8:59のとき夜間人口を示し、平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を二桁精度になるよう四捨五入した。震央距離は震央から各市区町村中心部までの距離。

行政区ごとの震度遭遇人口 (各震度階級の揺れに遭遇した人口を考慮して掲載)



補間した250mメッシュの推定震度分布と、250mメッシュに細分化した平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を重ね合わせ、各行政区の震度遭遇人口を推計した。

震度5以上の震度遭遇人口の推定値が無い場合、震度遭遇人口は表示されません。

この地域で起こった過去の主な被害地震

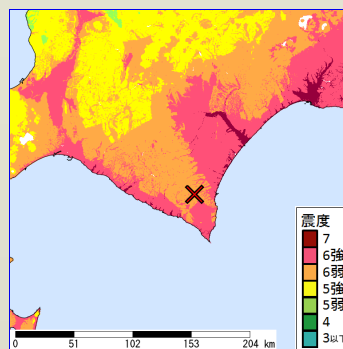
発生年	地震名	M	被害
1915	十勝沖	7.0	芽室村宇美生村と戸蔭村で家屋倒壊、死各1。
1952	釧路沖(十勝沖地震)	8.2	北海道南部・東北北部に被害があり、津波が関東地方に及ぶ。波高は北海道で3m前後、三陸沿岸で1~2m。死28、不明5、家屋全壊815、半壊1324、流失91。
1962	十勝沖	7.1	十勝川流域・釧路方面に被害が多かった。建物半倒壊2、その他の小被害があった。
1970	十勝支庁南部	6.7	傷32、住家全壊2、半壊7、一部破損139などの被害があった。
1982	浦河沖(浦河沖地震)	7.1	被害は浦河・静内に集中したが、札幌などでも微小被害が報告されている。傷167、建物全壊9、半壊16、一部破損174、鉄軌道被害45、小津波があった。
2003	釧路沖(十勝沖地震)	8.0	太平洋プレート上面の逆断層型プレート境界地震で1952年とほぼ同じ場所、死1、不明1、傷849、住家全壊116、半壊368、最大震度6弱(道内9町村)、北海道および本州の太平洋岸に最大4m程度の津波。

出典: 国立天文台編「理科年表 平成29年」, 丸善出版(2016)。一部表裏を割愛

J-SHISから公表している地震ハザード情報

防災科研が公開するJ-SHISでは、ある地点に対し影響を及ぼす全ての地震を考慮し、その地点が大きな地震動に見舞われる危険度、すなわち地震ハザードを評価しています。(2024年地震ハザード評価)

50年間超過確率2%の計測震度分布



再現期間50000年相当の計測震度分布

